

ぶどうのキクビアオハムシ（新発生）

令和7年7月下旬、十勝管内の醸造用ぶどうにおいて、葉に大きさ数mmの多数の穴が開いている症状が確認された。当該園地には「山幸」と「清舞」が植栽されていたが、いずれの品種においても9割以上の葉に食害が確認された。被害葉にはハムシ類の成虫および幼虫が確認された。食害は、下位葉に多く、上位葉（新葉）の被害は少ない傾向であったことから、展葉してすぐの5月頃に多数の個体が食害した可能性が考えられた。採取した成虫及び飼育下で羽化した成虫は、体長は約6mm、前胸背板が赤褐色で1対のくぼみがあり、上翅が緑青色などの特徴からキクビアオハムシ *Agelasa nigriceps* Motschulsky と同定された。本種の幼虫は、令和2年7月に、上記と同一品種を栽培する日高管内の圃場においても確認されている。

本種の幼虫は、令和2年7月に、上記と同一品種を栽培する日高管内の圃場においても確認されている。本種の野生寄主はヤマブドウやサルナシであり、当該ほ場のぶどうの品種もヤマブドウ系の品種であったため、好んで加害された可能性がある。

（中央農試・十勝農試）



上：ぶどう葉上のキクビアオハムシ（左：幼虫、右：成虫）

下：キクビアオハムシによる食害（いずれも中央農試 佐々木原図）